

こどもの城児童合唱団

「こどもの城児童合唱団」は、1985年の4月、同年11月の「こどもの城」のオープンに先駆けて結成された児童合唱団です。現在、小学1年生から大人まで280名の“ちがうみんなが集まって”、毎週土曜日に4つのグループに分かれて、楽しくワイワイ遊びながら歌っています。平成13年度には、そんな活動が評価され、児童文化財として「児童文化賞」を受賞しました。

今回、たくさんのおみなさんとの出会いを楽しみにしています。そして、私たちの歌でみなさんを元気にできるように、心をこめて歌います！

吉村温子（指導・指揮）

プロフィール／こどもの城音楽事業部講師、玉川大学非常勤講師ほか。同合唱団をはじめ、幼児や就園前の親子リトミックなど、幼児から大人までを対象に幅広くユニークな音楽表現活動を展開。全国各地の子どもたちとのドラマスクールやミュージカルづくりの現場にも参加して指導。また、オペラやコンサートにも多数出演している。著書に、『教科書に出てくる童謡・唱歌のふるさと』（共著：岩崎書店）、「1週間の歌あそび」「四季の歌あそび」（共に教育実務センター）など多数あり。



司会者のご紹介

笠井信輔

みなさんの笑顔のために、私も司会を頑張ります！

プロフィール／「とくダネ！」（月～金：朝8時～）の司会を13年間務めるフジテレビのアナウンサー。昨年11月、震災取材体験をまとめた『僕はしゃべるためにここへ来た』を出版（産経新聞出版）。



ビリーブ Believe 作詞・作曲 杉本竜一

たとえば きみが きずついて くじけそうに なったときは
 かならず ぼくが そばにいて ささえてあげるよ そのかたを
 せかいじゅうの きぼう のせて このちきゅうは まわってる
 いま 미래の とびらを あけるとき かなしみや くるしみが
 いつのひか よろこびに かわるだろう
 アイ ビリーブ イン フューチャー しんじてる

もしもだれかが きみのそばで なきだしそうに なったときは
 だまってうでを とりながら いっしょにあるいて くれるよね
 せかいじゅうの やさしさで このちきゅうを つつみたい
 いま すなおな きもちに になれるなら あこがれや いとしさが
 おおぞらに はじけて ひかるだろう
 アイ ビリーブ イン フューチャー しんじてる

いま 未来の とびらを あけるとき

アイ ビリーブ イン フューチャー しんじてる

皆様のご協力に心より感謝いたします

- 協賛 太陽生命保険株式会社／富士ゼロックス東京株式会社
- 特別協力 聖路加国際病院遺伝診療部
- 協力 株式会社M'sDS（エムズディーエス）／富士ゼロックス東京かけはし倶楽部／株式会社ブーフーウー
- 製作協力 LOVE JUNX（ラブジャンクス）代表 牧野アンナ／セイビン映像研究所 河村正敏・松田恵子／こどもの城児童合唱団 指導・指揮 吉村温子／こどもの城AV事業部 昼間行雄／B.B.Productions 別府尚武
- 写真撮影協力 高橋依里
- 後援 厚生労働省／外務省／南アフリカ共和国大使館／日本遺伝看護学会／聖路加国際病院遺伝診療部／聖路加看護大学／認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本／財団法人児童育成協会こどもの城／NPO法人トイボックス／社会福祉法人全国心身障害児福祉財団／社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会／NHK／産経新聞社／朝日新聞社／読売新聞社／毎日新聞社

STEP FORWARD TOGETHER

3/21 国連による3月21日
「世界ダウン症の日」認定を祝って

みんなで一緒に前へ進んでいこう

2012年から国連が、正式に3月21日を「世界ダウン症の日」として認定しました。
 みんなでお祝いし、多くの人に「世界ダウン症の日」を知っていただくことで
 ダウン症のある人たちとその家族への理解をもっともっと広げていきましょう！

- 日時 2012年 3月20日(火・祝) 13:00～15:40 (開場12:30)
- 場所 聖路加看護大学 アリス・C・セントジョン メモリアルホール

PROGRAM

◆第1部 13:00～14:30

- 13:00～13:10 オープニング
LOVE JUNX（ラブジャンクス）によるダンスパフォーマンス
- 13:10～13:30 開会の挨拶
国連事務総長より世界ダウン症の日についてお祝いメッセージ
来賓を代表してご挨拶
来賓のご紹介
- 13:30～14:20 2011年国際エミー賞ノミネート記念
ザ・ノンフィクション「ピュアにダンスIV ～田中家の7年～」の映像上映
Making of ピュアにダンス
国際エミー賞ノミネートについて
- 14:20～14:30 日本ダウン症協会（JDS）からのアピール
「だれもがその人らしく、安心して暮らしていける社会に」

<休憩>

◆第2部 14:45～15:40

- 14:45～15:25 細川佳代子氏による記念講演
「インクルージョン社会をめざして」
- 15:25～15:40 エンディング
こどもの城児童合唱団による歌
☆最後は全員で「Believe」を合唱

JDS 財団法人
日本ダウン症協会

財団法人 日本ダウン症協会
〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団内
TEL 03-5287-6418 FAX 03-5287-4735
URL <http://www.jdss.or.jp> e-mail info@jdss.or.jp

より力強く前進していきましょう！

ブラジルなどが中心になり、78カ国の政府が協同で、3月21日を「世界ダウン症の日」として認定するよう国際連合に働きかけを続けてきました。その結果、2011年11月、第3委員会において、満場一致で、2012年より3月21日を「世界ダウン症の日」として認定することが決まりました。そして同年12月19日、国連総会の全体会合で正式に決定されました。

今年の3月21日は、国連により認められた記念すべき最初の「世界ダウン症の日」。そこでJDSは、「STEP FORWARD TOGETHER みんなで一緒に前へ進んでいこう」とのスローガンの下、当イベントを開催します。このスローガンは、ダウン症のある人たちははじめとする障がいのある方々に対する理解促進はもちろんのこと、東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故など困難に直面した今の日本の状況に鑑み、復旧・復興への祈りも込めたものです。

皆様と手を携え、現状に満足することなく、だれもがその人らしく、安心して暮らしていける社会の実現に向けて、一歩ずつ前へ進んでいきましょう。

財団法人日本ダウン症協会 理事長 玉井邦夫

3月21日「世界ダウン症の日」に関する国連決議文

<4月2日「世界自閉症啓発デー」の国連決議文を参考に、広報出版委員会の国際情報担当が翻訳したものと>

総会により採択された決議 <第3委員会の報告 (A/66/462/Add.1) に基づく>
66/149 世界ダウン症の日

国連総会は、

2005年の世界サミット最終文書および国連ミレニアム宣言、ならびに、経済・社会および関連分野に関する主要な国連会議およびサミットの成果を想起し、

また、障害をもつ人が、他の人々と平等な人権と基本的自由の全面的享受はもとより、尊厳を確保し、自立を促進し、かつ、そのコミュニティへの積極的な参加を容易にする条件の中で、充実した人間らしい生活を享受すべきとし、また、国家が、社会全体において障害者についての認識を高めるために迅速、効果的かつ適切な手段を責任をもって講じることとした「障害者の権利に関する条約」も想起し、

すべての障害者のあらゆる人権および基本的自由の全面的実現を確保、促進することは、国際的に合意された開発目標の達成に欠かせないことを確認し、

ダウン症は、人間に常に起こってきた自然発生の染色体配列であり、人種、性別、社会経済的地位を問わず普遍的に存在し、全世界においておよそ800人に1人の割合で生まれ、知的障害と医療的な併発症を引き起こすものであるということ意識し、

世界のあらゆる地域でダウン症が広がり、高い罹患率に達していること、ならびに、その結果として、各国政府、非政府組織 (NGO) および民間セクターが実施する長期的な保健医療、教育、訓練および介入プログラムを発展させるといった課題があること、また、家族やコミュニティ、社会に深刻な影響が及んでいることを深く憂慮し、

個人の成長と発達には、保健医療・早期の介入プログラム・インクルーシブな教育への十分なアクセス、ならびに適切な研究が不可欠であることを想起し、

本来の尊厳、社会の福利とコミュニティの多様性の推進者としての知的障害者の価値あるかつ貴重な貢献、および、その独自の選択をする自由を含む個人の自主性と独立の重要性を認識し、

1. 3月21日を「世界ダウン症の日」に指定し、これを2012年から毎年、記念することを決定する。
2. すべての加盟国、国連システムの関係機関その他の国際機関、ならびに、NGO および民間セクターを含む市民社会に対し、ダウン症に対する世論の認識を高めるため、「世界ダウン症の日」を適切に記念するよう働きかける。
3. 加盟国に対し、家庭レベルを含む社会全体で、ダウン症のある人に対する認識の向上を図る措置を講じるよう促す。
4. 事務総長に対し、本決議について、すべての加盟国および国連機関の注意を喚起するよう要請する。

第89回本会議 2011年12月19日



LOVE JUNX (ラブジャンクス)

「LOVE JUNX」は、「世界初」のダウン症のある人たちのための本格的なエンターテインメントスクールで、ヒップホップ系ダンス・演劇・歌を軸として活動中 (NPO法人「トイボックス」所属)。2002年10月に開校し、翌年の初ライブで1,000人以上の観客を集めると、医療や福祉の関係者から驚きをもって迎えられました。現在、東京・大阪を拠点に700名以上が所属し、多方面で活動を展開しています。

牧野アンナ (LOVE JUNX代表)

3月21日が国連で正式に「世界ダウン症の日」と認定されたことを、ダウン症のある方々に関わる者として心から嬉しく思っています。そして、認定後初めてこの日を迎える記念すべき年に、素晴らしい催しに出演する機会を与えてくださったJDSに感謝の気持ちでいっぱいです。



プロフィール/1983年、父が開校した沖縄アクターズスクールでエンターテインメントを学び始め、1992年、スーパーモンキーズのリーダーとしてデビュー。脱退後、同スクールのチーフインストラクターとしてSPEED、DA PUMPなど多くのスターを育成。2002年、JDS主催のダンスイベントを通してダウン症のある人たちと出会い、同年10月、LOVE JUNXの活動を開始。

映像上映：国際エミー賞ノミネート「ピュアにダンスⅣ ～田中家の7年～」

国連の認定、おめでとうございます。そして、今回は上映の機会を頂き有り難うございました。ダウン症についての理解がさらに広まり、ダウン症のある人たちが生き生きと暮らせる社会になりますように願っています。今後とも、JDSの活動を微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。



河村正敏 (セイビン映像研究所 プロデューサー・カメラマン)

松田恵子 (セイビン映像研究所 ディレクター)

プロフィール/河村：クィーン、キャンディーズラストコンサートの撮影監督。医療ドキュメンタリーも多数手がける。「世界の車窓から」は16年間、撮影を担当し、日本映画撮影監督協会のJSC賞を受賞。松田：出産、不妊、生殖医療等、命をめぐるドキュメンタリーを多数演出。

※詳細については、お手元の資料 (会報「JDSニュース」2012年2月号より) をご覧ください。

日本ダウン症協会 (JDS)からのアピール <ダウン症のある本人2名と、清野弘子JDS理事より> 「だれもがその人らしく、安心して暮らしていける社会に」



南 正一郎

プロフィール/1972年生まれ。小・中学校は普通学級、高等部は養護学校に。卒業後は14年間、新聞販売店で新聞のセールスや折り込み、掃除、契約取りなどをして働いた。平成20年に白血病になったが、治療に成功、通院しながらも今は元気！ 昨年、14歳から始めた空手で黒帯を取得。趣味はものまねで、コロッケと志村けんに惚れ込んでいる。



町田 望 (のぞみ)

プロフィール/1977年生まれ。小・中学校は普通学級、高等部は養護学校に。卒業後は菓子店や喫茶店などで働く。今は作業所で喫茶の仕事。接客や経理を担当し「店長」と呼ばれている。土曜日には、こども図書館 (交流館) に本の読み聞かせなどのアルバイトに行く。趣味は手話とカラオケで、坂本龍馬が大好き！ 図書館で調べて年表を書いている。



記念講演

「インクルージョン社会をめざして」

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本 名誉会長 細川佳代子
NPO法人勇気の翼インクルージョン2015 理事長

この度は「みんなで一緒に前へ進んでいこう」の開催、おめでとうございます。私は約20年間、スペシャルオリンピックスの活動を通して、障がいのある子どもたちと触れ合って参りました。彼らの明るさ、純粋さ、そして様々な才能に触れるたびにどんどん魅せられ、そして私自身が励まされていることに気がきました。

私がめざすのは、障がいの有無に関わらず「誰もが支え合って、生き活きと輝ける社会」です。このイベントを機に、誰もが大切な存在と認め合える、助け合いの、ぬくもりのある社会をめざしたいですね。

プロフィール/上智大学卒業後、駐在員として欧州各国に滞在。1971年に細川護熙氏と結婚、政治活動を支える一方でボランティア活動に取り組む。1994年「スペシャルオリンピックス日本」を設立。その理念を広げるため啓発活動を行いながらインクルージョン (包み込む社会) の実現をめざし、NPO法人「勇気の翼インクルージョン2015」を設立。2011年に製作・総指揮を務めた映画『幸せの太鼓を響かせて～INCLUSION (インクルージョン)～』は全国20都市以上で上映。



『花も花なれ、人も人なれ —ボランティアの私—』
(角川書店：2009年)